

宮崎市立江平小学校の学力向上の取組

1 学校の概要

本校は、本年度創立77年目を迎える歴史と伝統をもった学校である。宮崎市の中心に位置し、宮崎駅・宮崎中央郵便局・県体育館・市中央公民館・江平商店街などの施設等が校区内にある。文化的な面、生活や交通機関の利便性では恵まれた地域にある。

2 児童の実態

児童数は、10月1日現在 男子407名 女子395名 計802名で、27学級である。宮崎東中学校に入学する小学校区は江平小学校1校のみであり、子どもたち同士の人間関係の変化が少なく、リーダーが固定化する傾向にある。

3 学力向上に向けた経営方針

平成15・16年度の2か年にわたり、宮崎市の指定研究学校として小中連携教育による学力向上の課題に取り組んできた。本年度は、これまでの取組を継続させ、国語並びに算数を中心に9年間を見通した学びあいの工夫や個に応じた指導法の工夫、指導と評価の一体化（評価規準の作成と形成的な評価）に力を入れて授業改善に取り組んでいるところである。

〈学力向上の構想〉

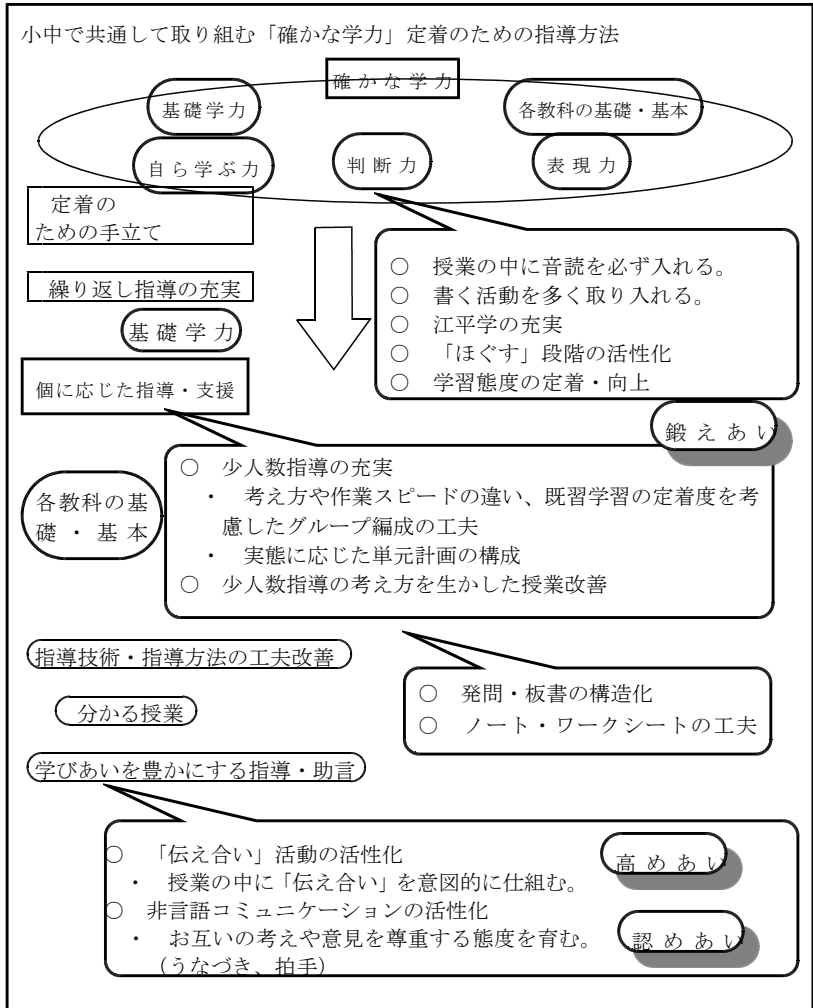
学期	月	指導力改善研修	江平小基礎学力テスト	江平学の充実	学びの手引き・家庭との連携	小中連携
一	4			江平学の年間計画の作成 朝の江平学（4回）	家庭学習の手引き配布 学習態度育成月間	学びの手引き
	5		学力調査〈5年〉	朝の江平学（5回） 1単位時間の江平学	参観日で家庭学習について説明	小中連携研修会
	6	国語授業研究		朝の江平学（5回） 1単位時間の江平学		小中連携英語活動① 作品交流①
	7	学力調査結果分析 指導と評価の一体化についての研修		朝の江平学（5回） 1単位時間の江平学	がんばりカード①	サマースクールの実施 小中連携研修会
	8	各教科実践内容検討 評価規準の作成			個人面談	小中連携サマースクールの実施
	9		基礎学力テスト①対策	朝の江平学（7回） 1単位時間の江平学	学習態度育成月間 学習意識調査①	
	10	算数授業研究	基礎学力テスト① （8割以上達成）	朝の江平学（6回） 1単位時間の江平学		小中連携英語活動② 作品交流②
	11		8割未達成児童への指導	朝の江平学（7回） 1単位時間の江平学	学習意識調査等を受けての改善	小中連携英語活動③
二	12	人権教育授業研究		朝の江平学（5回） 1単位時間の江平学	がんばりカード②	
	1		基礎学力テスト②対策	朝の江平学（5回） 1単位時間の江平学	学習態度育成月間	小中連携英語活動④ 作品交流③
	2		基礎学力テスト② （8割以上達成）	朝の江平学（6回） 1単位時間の江平学		
	3		8割未達成児童への指導	朝の江平学（5回） 1単位時間の江平学	学習意識調査②	

4 教育課程内の取組

(1) 小中で共通して取り組む「確かな学力」定着のための指導方法の改善

昨年度までの研究を受けて指導過程の中で「鍛えあい」「高めあい」「認めあい」の場を仕組むようにしている。小中学校同じ指導法を取り入れることで、9年間を一貫した指導で展開できる。

また、小中学校の教師が、学習内容の系統を踏まえて授業をすることができるようになってきている。右に示すものが、小中で共通して取り組む確かな学力定着のための指導方法である。



【算数学習を自己評価している児童】

(2) 指導と評価の一体化

本年度は、指導と評価の一体化を目指して、形成的な評価を確実にを行うために評価計画（評価規準）を見直し、授業で活用できるように工夫・改善しているところである。

右の資料は算数における評価計画の例である。1時間ごとの評価規準と個に応じた支援を計画している。

学習指導中に必ず形成的な評価をして、個への支援を確実に行うことができるようにしている。

3 学年 算数科 評価計画

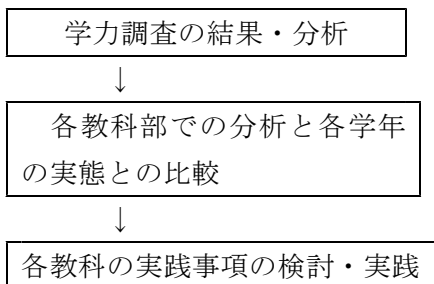
- 単元 長い長さ
- 目標
 - 計器のよさに関心をもち、k mの単位で身のまわりの長さを測定しようとする。
 - 長さの普通単位(k m)の必要性を考慮することができる。
 - 道のりを長さの単位を使って表したり、巻尺を使って測定したりできる。
 - k mについて知り、巻尺のしくみや使い方がわかる。
- 単元の指導計画

段階	主な学習内容及び活動	時間	評価計画			
			関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
ほぐす つかむ	・長さについての動機づけ	1	○		○	
ふかめる	・長さの目測と巻尺による実測 ・長さの単位「k m(キロメートル)」の理解	2		○		○
よりかえる	・基本のたしかめをする。	1	○	○	○	○
- 本時の目標、評価と支援 (第1時)
 - 目標
 - 長さの見当づけを行い、巻尺を使って直線上の長さを測ることができる。
 - 本時の評価

	評価規準	個に応じた支援
A	長い長さに興味をもち、長さに応じて30cmものさし、1mものさし、巻尺で直線の長さをほぼ正確に測ることができる。	・Bの児童には巻尺の種類で0の位置が異なることを確認させたり、ピンとはって測定するなどの使い方をわからせたりする。
B	長さの見当づけを行い、巻尺を使って直線上の長さを測ることができる。	・Cの児童には1cmや30cm、1mなどの大きさを自分の身体の部分の長さでもう一度確かめさせたり、長い長さを測るには長いものさしがあれば便利にことに気づかせたりしていきたい。
C	長さの量感が乏しく、長さの見当づけができていない。	

(3) 学力調査を受けての指導の改善の取組

5年生は本年度の学力調査を受けて以下のような取組を行った。



5年生が受けた学力調査ではあるが、本校児童の実態に関連するものが多いと考え、各教科で本年度確実に指導しておくべき内容を洗い出し、右のような対策を考えた。特に朝の江平学で取り組むべき内容を改善したり、プリントを作成したりして共通理解・共通実践に努めている。

学力調査の結果・分析をもとに各教科で取り組むこと (例 国語)

【国語】

- 朝の江平学で、漢字と文法的事項の定着を図る。
 - ・ 文法的事項の定着を図るために「ことばのきまり」を全学年購入し、毎月1回取り組む。
(本年度は、9月以降下巻から取り組む)
 - ・ 漢字の定着を図るために、金曜日に練習、翌週の火曜日にテストというサイクルで取り組む。
- ローマ字を使う機会を増やし、定着を図る。(第4学年以上)
 - ・ 家庭学習で日記の題名をローマ字で書く。
 - ・ ローマ字でのパソコン入力に積極的に取り組む。
(総合的な学習の時間「情報教育」との関連)
 - ・ 学びのコーナーにローマ字に関わるものを取り入れる。

(4) 江平小基礎学力テストの実施

学力向上の構想にあるように10月と3月に本校独自の基礎学力テストを実施している。年に2回実施することで児童の変容を確かめ、補強を行う手立てとしている。実施内容は、国語(漢字・音読)及び算数で各学期の内容の確かめができるようにしている。実施前には十分に練習をさせ、また朝の江平学の時間の内容とも関連させながら、しっかり指導をし、チェックしている。実施後は、結果の集計・分析を行い、指導の手立てを考えるように計画している。達成度が8割に達していない児童には、テスト後に指導を継続して行い、支援に努めている。

5 教育課程外の取組

(1) 朝の江平学

朝の江平学の時間は、国語と算数における基本的な事項の確かな定着を図るために設定した取組である。右は、作成したプリントの例である。

本学習の内容は、年に2回実施される基礎学力テストにつながっている。

- ① 時間 8:10～8:25
- ② 内容 算数(計算を中心に練習)
国語(漢字, 言語事項を中心に練習)

江平学 漢字 書き										月 日	
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	☆漢字に直して書きましょう。	四の(一)
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	☆漢字に直して書きましょう。	四の(一)
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	☆漢字に直して書きましょう。	四の(一)
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	☆漢字に直して書きましょう。	四の(一)

【作成した漢字プリントの例】

(2) サマースクール

サマースクールは、江平小学校が行うものと宮崎東中学校の先生方が指導する「小中連携サマースクール」の2つがある。

江平小でのサマースクールは、本年度は7月22日から28日の4日間実施した。内容は国語、算数、パソコン操作方法、自由研究等で、合計348名の児童が参加した。

宮崎東中学校での小中連携サマースクールは、8月2日から5日の4日間実施した。内容は、国語・社会・算数・理科・家庭・音楽・美術・体育である。5・6年生児童の希望者109名が参加した。



【サマースクールの様子】

6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 学びの手引き

宮崎東中学校との研究で9年間を見通して作った「学びの手引き」がある。本年度もこれを活用して各学年家庭学習の取り組み方について、説明を行っている。学年間だけでなく中学校とも共通理解が図られているので、児童が家庭学習に取り組みやすい状況にある。

(2) 個人面談の実施

夏休み中に全家庭を対象に個人面談を実施している。児童の指導にかかわる保護者との共通理解が図られる貴重な場になっている。

個人面談の際には、学級担任ががんばりカード（家庭連絡表）を作成し、面談の資料としている。右の資料がその例である。

児童が、4月から7月までにがんばったことや夏休みにがんばって欲しいことがコメントしてある。また、児童の夏休みの目標や保護者との休み中の約束なども書く欄を設けている。夏休みを充実させるための手立てとなっている。

6年()組()番名前()

夏休みがんばりカード	
先生から	4月から7月まで、よくがんばったことと、夏休みにがんばってほしいことです。
よく考えて書きましよう	4月から7月までの反省を書きましょう。(学校で書きます。)
書きましよう	夏休みの学習目標(お家の人と相談して書きましよう。)
お家の人から	夏休みの生活目標(お家の人と相談して書きましよう。)
お家の人から	夏休みの様子

福
語

担
任
印

7 成果と課題

- 昨年度からの研究を引き続き行い、児童の学び方は育ってきている。教師が授業の改善を目指してよりよい授業をする指導法の工夫・改善が成果を上げてきているところである。
- 基礎学力の向上に関しては、朝の時間の活用・月1回の江平学の時間の活用・授業での重点指導など関連を考えながら指導していくことで、学力が高まってきていると考えている。
- 評価規準の妥当性や個への手立てなどさらに研究していく必要がある。